

札幌の魅力を育む



民間の調査で魅力的な都市として常に上位に入る札幌。そこには、市民や観光で訪れる方のために力を尽くす人々の姿があります。このページでは札幌の魅力を陰ながら支える“匠”にインタビュー。その思いに迫ります。

第1回 時計台の時計職人

しむ ちむら やす なり 下村 康成さん 時計台の塔時計の保守に携わる。41歳。

昔のままの時計台を未来へ引き継ぎたい

下村さんが、時計台の時間調整をはじめとした保守に携わるようになったのは、1998年のこと。「過去に培った機械整備の技術を生かしたいという思いが強かったのですが、次第に時計台の魅力に引き込まれていきました」と語る。

塔時計の動力は、50kgの重りが4日間かけて約3m下まで落ちる力。時計は、その動力で回る歯車の速度を振り子が調整することで動いている。下村さんは、塔時計を止めることなく正確に動かし続けるため、重りの巻き上げや、温度で伸縮する木製の振り子の長さの調整を、16年間欠かさず行ってきた。「重りは滑車とハンドルを使って巻き上げていきます。振り子は長さが変わると時間がずれてしまうので、気温や湿度を参考にミリ単位で調整が必要なのですが、これがとても難しい」と下村さん。

力と繊細さが求められる作業だが、重りを電動で巻き上げる装置の導入が検討されたときは、猛反対した。「時計

台の塔時計は、約130年前の仕組みが今も機能している世界的にも珍しいもの。昔のままを未来へ引き継いでいくことが大切なんです」
そんな下村さんがやりがいを感じるのには、鐘の音に耳を澄ませながら塔時計を眺めている人を見つけたときだという。「美しい鐘の音に聞き入る姿を見るのは本当に幸せ。日々の苦労なんか吹き飛びますよ」。下村さんが整備した塔時計は、今日も時間通りに鐘の音を響かせている。



の裏話

重りは約130年前の河川敷の石

重りに使われているのは、塔時計が設置された1881年に豊平川の河原に転がっていたたくさんの石。時計の仕組みと同様、昔の知恵が今も生き続けています。



時計台

見学日時 8時45分～17時10分。第4月曜(祝・休日の場合は翌日)を除く

所在地 中央区北1西2

入場料 200円。中学生以下無料

交通機関 地下鉄「大通駅」下車。徒歩5分

詳細 ☎231-0838

時計台の歴史や見どころはホームページでもご覧になれます

ようこそさっぽろ 時計台

